

大阪 A・P・S コンソーシアム 介護スキルラボ  
介護職技能実習生に対する講師派遣 報告書

実施日 : 2019年11月13日(水)～2019年12月13日(金) 計31日間  
実施場所 : ベトナム ハノイ ホアンロン教育第2センター  
報告日 : 2020年1月8日(水)  
報告者 : 社会福祉法人愛和会 中塚 俊文

### 1. 目的

- (1) アジア健康構想の一環として、外国人技能実習制度において、日本式介護技術知識・技術の移転、そして、日本・ベトナム間の人材還流を行う。
- (2) ベトナムでの生活や学生との交流を通じて、ベトナム文化・歴史・国民性を知ると共に、ベトナムでの生活を体験することで、今後日本での生活を送る実習生の気持ちを知り、第2フェーズの活動と3期生の体制整備に活用する。

### 2. クラス紹介と日本語レベルについて

- (1) Aクラス:10名(N4:8名 N3:1名 N2:1名)

日本語での授業進行も良好で、通訳からの補足説明や、理解度の確認をすることは殆どなかった。一方で、通訳からの「理解できたか」の問いかけに「理解できている」との返答をしているが、実際は理解できていない生徒も数名見られたが、総体的には授業への姿勢は積極的で、こちらからの質問にも日本語で答えられる生徒が多い。

- (2) Bクラス:9名(N4:7名 N3:2名)

日本語の聞き取りや理解についてはAクラスに比べると通訳を介する割合が多いが、日本語での質問であっても、ゆっくりと話せば理解できる生徒が多い。授業態度は熱心でこちらからの質問を理解できれば積極的な返答ができています。また、講師からの問いかけにも「はい！」と元気な返事が見られAクラスよりも活気があり、流暢ではないが授業中の講師とのコミュニケーションは活発であった。

### 3. 授業カリキュラムについて

- | (1) 時間割 | 1コマ45分        | 午前Aクラス | 午後Bクラス        |
|---------|---------------|--------|---------------|
| ①       | 9:05 ~ 9:50   | ④      | 13:00 ~ 13:45 |
| ②       | 10:00 ~ 10:45 | ⑤      | 13:55 ~ 14:40 |
| ③       | 10:55 ~ 11:40 | ⑥      | 14:50 ~ 15:35 |

(2) 授業内容 \*授業内容の詳細は11月13日(木)以降の日報参照

① 介護過程の展開 (復習)

- ・専門性を活かした介護過程の展開

② 情報収集に関する基礎知識(復習)

- ・利用者個々人の認識
- ・利用者の変化について必要な情報収集方法

③ 社会と生活の理解(復習)

- ・生活と何か
- ・社会生活とルール

④ 介護技術演習(復習)

- ・移乗介助: ベッド・車椅子間、ベッド・ストレッチャー間
- ・更衣介助: 左上下肢麻痺利用者を設定した残存機能活用の更衣介助
- ・排泄介助: ベッド上でのオムツ交換
- ・食事介助: ヨーグルトを実際に使用し、利用者役は目を隠し、食べる際の自身の口の動き意識し開口～嚥下までの流れを確認
- ・その他 : リネン交換、手洗いチェッカーによる正確な手洗い実施

\*使用教材:やさしく学べる介護の知識・技術 介護職員初任者テキスト1・2

体位交換演習場面



並行移乗演習場面



食事介助演習場面



移乗介助演習場面



#### 4. ベトナムの生活について

11月中旬からの訪越であったため、滞在期間を通して気温は20℃前後と涼しく、また乾季のため雨も少なく快適な気候であった。週末には外出する機会も多かったが、コミュニケーションは簡単な単語やジェスチャーで通じることが多く、また翻訳アプリの活用により、不便さはあまり感じられなかった。最後の週末には通訳のヴァン先生の帰郷に同行させて頂く機会があった。観光地案内や食事など、手厚いもてなしに感謝すると共に、家族や親族との親密さを感じることができた。

通訳のヴァン先生家族



#### 5. まとめ

8月中旬、ベトナム派遣講師のお話しを頂いた際は、2期生の締め括りというプレッシャーを感じながらの訪越であった。その後も「教えなければならない」「もっと日本語を話せるようにならなければならない」という義務感だけが先行した日々が続いた。しかし、生徒達はいつも笑顔で、真面目に、一生懸命に、真摯に日本語を学ぼうとする姿勢を見ると「しなければならない」とは別に「してあげたい」という想いも強くなった。生徒の中には3歳～10歳の子どもを残して日本に来る生徒もおり、生徒の想いや覚悟も強く感じられた。

また、単に講師として授業を行う以外にも、1期生CDクラスの出国、ホアンロン運動会・スピーチ大会、国営放送の取材、JLPT試験、修了式など様々な行事や貴重な機会に立ち合わせていただくことができた。

今後はコアメンバーとして2期生の入国後研修や3期生のカリキュラム改正等、技能実習生へのサポートを行うと共に、私が所属する愛仁会宝塚地区にもこの事業を周知・浸透させ、3期生以降の受け入れ態勢を構築させたい。

## 6. 最後に

今回、ベトナム派遣について、機会を与えて頂いた坪統括部長、川本統括部長、長尾部長はじめ、APS関係者の皆様および、快く送り出して頂いた岡村総施設長、富田施設長はじめ、宝塚あいわ苑の皆様には、心より感謝申し上げます。また、現地での生活においては、言葉の通じない異国においても、坪忠典氏からの手厚いサポートにより、安心して生活を送ることができました。ありがとうございました。

修了証書授与の集合写真



国営放送インタビュー場面



1期生CDクラス出国場面



スピーチ大会1位、3位受賞

